昭和大学歯科病院だより　2022. 5月号

通算204号
2022. 5.15 発行

昭和大学
SHOWA University

―昭和大学歯科病院の理念―

患者本位の医療
先進的医療の推進
良き医療人の育成

発行責任者　病 院 長　馬場 一美
編集責任者　広報委員長　長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2－1－1
TEL 03-3787-1151（代表）
ホームページ：https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html

先進義歯外来開設から1年

補綴歯科　診療科長・准教授　岩佐 文則

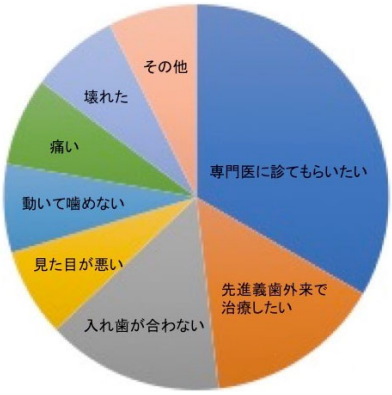
久しぶりの病院だより「巻頭言」は、何を書こうかと迷いましたが、ちょうど先進義歯外来の開設から1年経過しましたので、その診療状況を少しお伝えしておこうと思います。

これまで受診患者さんの数は今年の2月までで延べ27名、男性12名、女性15名でした。うち院内での紹介が6件（補綴歯科を除く）、他院からのご紹介は3件でした。まだまだ院内での周知のみですので院外にも広報活動を広げていきたいと思っています。

初診時の主訴及びご相談内容については「専門医に義歯をつくってもらいたい」が最も多く、「先進義歯外来で治療を受けたい」を含めると約半数の方が具体的なお悩みというよりも先進義歯外来に何かを期待されて受診されているように感じました。補綴装置別では総入れ歯が9床、部分入れ歯が19床で、ご相談だけでいらっしゃった方も多く27名中7名の方がお悩みをお伺いし、使用中の義歯の修正とご提案書をお持ち帰りいただきました。さらにインプラントを固定源とした入れ歯治療を提案させていただいた方が3名いらっしゃいました。インプラントが入れ歯治療にも有効であることは間違いありませんが、無理をする必要もなく患者さんの条件次第と思っています。

また比較的多くの方が衛生面への意識が高く、清潔なので取り外しができるほうが良いというお話もされていました。補綴装置の衛生面への意識は年々高まっていることを実感しています。

最後に、「先進義歯外来」のホームページが開設されます。ご興味のある方は義歯に関するさまざまなご相談を承っておりますので、ぜひご覧いただいて一度入れ歯について語るお時間を頂戴できれば幸いです。



先進義歯外来を受診された患者さんの主訴

P1　巻頭言　先進義歯外来開設から1年
P2　診療科紹介　補綴歯科
P3　新入職員ご挨拶
P4　歯と口の健康週間、クールビズ、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。
患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

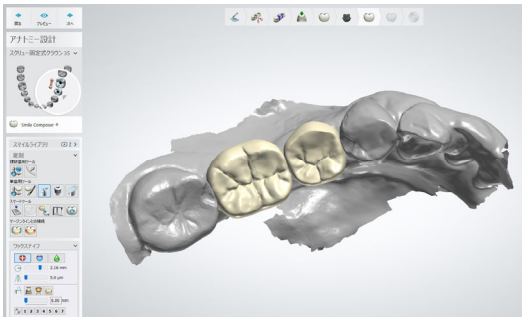
診療科紹介：補綴歯科

補綴歯科　助教　原 真央子

私たち補綴歯科は、冠橋義歯（かぶせものやブリッジ）、有床義歯（入れ歯）といった「補綴治療（歯が欠けたりなくなった場合にかぶせものや入れ歯などの人工物で補うこと）」についての全領域の研究・教育・臨床業務を担う部署です。顎関節症治療科、インプラントセンター、昨年開設された先進義歯外来といった診療部門についてもその一翼を担っており、国内でも数少ない補綴系が一つに統合された診療科です。

補綴歯科の外来は、日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会、日本顎関節学会の指導医・専門医で構成される診療スタッフを中心に、大学院生や研修医の臨床教育を担うチーム診療制を採用しています。冠橋義歯、有床義歯、インプラントを包括する補綴系総合診療科であるメリットを最大限生かし、それぞれの専門性を維持しつつ、高度で先進的な欠損歯列患者のトータルケアを行えることが強みです。私たちは “持続的な「変化」と「進歩」” をモットーとし、基盤となる治療技術を高いレベルで提供することを目標としています。

デジタルラボラトリー



コンピュータ上での設計

世界に目を向けると、患者ニーズに対応した新たな技術が日々開発されておりますが、これらについても積極的に取り入れるべく常に最先端の医療を提供できる環境を整備することに力を注いでいます。現在、私たちが力を入れている臨床技術として従来のように入れ歯かインプラントのいずれかを選択するのではなく、最小限の本数のインプラントを入れ歯の固定源として組み込み、より安定して動きづらい入れ歯を提供する治療を行っています。新たなインプラントの利用法として、更に多くの患者さんがインプラントの恩恵を享受できるのではないかと期待しています。

また、デジタル歯科分野にも力を注いでおり、コンピュータを利用したかぶせものやブリッジの製作だけではなく、光学印象装置（三次元カメラで型どりを行う装置）の導入をはじめとした新たなデジタル技術の開発も行っています。この様な最新技術の臨床応用・臨床普及を通じて、すべての欠損補綴患者さんが「最小の負担で最高のテーラーメイド治療」を受けられる補綴専門診療科となることが私たちに課せられた使命であることを胸に刻み、日々の臨床に取り組んでいます。

補綴歯科スタッフ

新入職員ご挨拶

2022年3月に本学大学院を修了し、4月1日より小児歯科の助教（歯科）として入職いたしました、大田千央です。

大学院ではお子さんのお口の機能発達に関する研究を行っており、これまでの経験をもとに、お子さんが楽しくお食事やお話しができるようお手伝いできるよう心がけたいと考えております。周りの方への感謝の気持ちを忘れず、いつも笑顔で日々精進して参りたいと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

小児歯科　助教（歯科）　大田 千央

2022年3月に本学大学院を修了し、4月1日より矯正歯科に入職いたしました嶋田百合です。

矯正歯科治療は、小児からお年寄りまで幅広い年齢層の患者さんを対象とします。小児歯科や補綴歯科など他科との連携を行いながら、本学大学院で得た知識や経験を活かし、科学的エビデンスに基づいた新しい治療を提供したいと考えております。

さらに、臨床だけでなく、研究、教育に従事し、昭和大学の更なる発展に寄与できるよう精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

矯正歯科　助教（歯科）　嶋田 百合

今年度より顎顔面口腔外科に入職しました根本結基です。

歯科治療というと歯のみに意識が向きがちですが、歯以外にも歯茎、舌、顎骨、筋肉、神経など多数の組織によって口腔内は構成されています。時には、それらの異常により手術が必要になる場合もあります。

当院でさまざまな口腔内の病気の治療を経験し、より大きく成長できればと考えています。皆様の健康に口の中から寄与できるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

顎顔面口腔外科　助教（歯科）　根本 結基

インプラント治療に関する説明会 開催します

患者さんを対象にしました、「インプラント治療に関する説明会」を開催します。

インプラント治療について、わかりやすくご説明いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

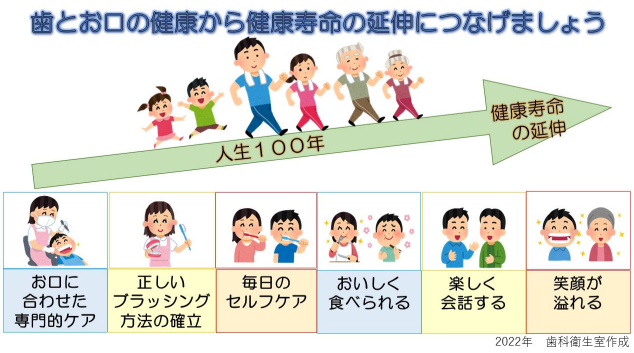
日時：2022年5月25日（水）、6月22日（水）
　　13時30分～15時00分
会場：昭和大学歯科病院 ２号棟第１会議室
参加費：無料　先着15名まで　当日直接会場へお越しください。（事前申し込み不要）

歯と口の健康週間

歯科衛生室　加藤 承子

6月4日～10日は「歯と口の健康週間」です。令和4年度の標語は「いただきます　人生100年 歯と共に」です。

みなさんは食事をおいしく食べられていますか？　毎日の食事は健やかな生活を支えます。食事から十分な栄養を摂るためには、しっかり噛める歯がある事はもちろん、舌や頬の動きや飲み込み（嚥下）の力の機能維持など、歯と口の健康が大切です。そのため、毎日の適切なセルフケアや定期的な歯科受診によるむし歯・歯周病の予防、お口の機能を維持・増進することが必要です。



健康で整った口元は笑顔が溢れ、会話も弾み、生活がより充実し、健康寿命の延伸につながります。ぜひ、お口の健康づくりに目を向けてみませんか？

当院では、お口の状態に合わせたブラッシング方法の提案や専門的な機械を使った歯のクリーニングやお口の機能検査など、皆さんの健康保持・増進のサポートをさせていただいております。詳しくは歯科医師、歯科衛生士にお尋ねください。

歯と口の健康週間（６月４～１０日）｜歯と口の健康週間｜啓発活動｜日本歯科医師会 (jda.or.jp)

クールビズを5月1日（日）より実施しています

昭和大学は、全施設一丸となって節電対策に取り組んでおります。

当院でも2022年5月1日（日）よりクールビズを実施しています。

皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

気温に合わせた柔軟な服装（ノーネクタイ・ノージャケット等）で就労いたします。

事務課管理係

編　集　後　記

久しぶりにやや規制が緩和されたゴールデンウイークを皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。行楽地などでは多くの人出があり、徐々に今までの生活が戻ってきたのかなと感じさせられます。医療従事者としては、まだまだ自粛が続きますが気を緩めることなく対策をしっかりとし乗り切りましょう。

（M.H）